

### 1. 産業大臣、日本からの投資を求む

2/18、産業大臣アミール・ホセイン・アムーは、日本の企業にわが国の重要な部門、特にガスの探索、インフラ、教育、通信、農業そして農産物加工に投資を求めた。産業大臣は会議で肥料生産の効果促進、農業部門での生産性向上そして教育、ガス探索分野での協力を含め、2カ国間協力に関し様々な問題を会議で話し合った。わが国はほとんど食料を自給自足できるようになり、日本の企業にとって今、わが国の農産物加工に投資する大きなチャンスであると付け加えた。大臣は日本国大使を訪問し、バングラデシュには巨大なマンパワーがあり、技術のある労働者も多くいるので、わが国からもっとマンパワーを雇用するように求めた。日本国大使はバングラデシュへの投資の可能性をベトナムよりも勝っていると賛美した。

### 2. 船舶輸出、大幅減少

わが国の船舶解体産業は適切な援助が不足しているため、危機的時期を過ごしており、その結果、この部門からの輸出収益はここ数年大幅に減少している。1/05の総選挙をクライマックスにしたわが国の政情不安は、この部門に致命的だったと業者たちは語っている。彼らはこの状況を克服するために、積極的な援助しなかった政府をも非難した。情報によると船舶、ボートおよび浮体構造物の輸出により、会計年度2011-2012年度には、この部門から4,595万ドルを稼いだ。しかし2012-13年度は573万ドルに相当する外国為替がわが国に入ってきただけである。また今年度の7ヶ月間、この部門は350万ドルに相当する外貨をわが国に送り込んだのみである。

125の船舶解体作業所がチッタゴン・ディストリクトのシタクンダ・ウパジラの海岸地帯に建設され、そこでは毎年200艘以上の船が解体されている。船舶解体作業所は、需要に見合うように鉄を供給し、産業にも貢献している。データによると政府は毎年この部門から900億タカの収益がある。もし政府の適切な援助があれば、多くの労働者を雇用し第3番目の外貨収益部門としてこの部門は拡大するであろう。ダッカ商工会議所(DCCI)会長シャハジャハンは、「度重なる停電とガス不足のため造船所の作業が妨げられている」と語った。アノド・シッピヤードのアブドゥッラ・ヒル・バリ博士は、「造船と船舶解体の需要は、世界中で大幅に増加している。この部門を推進させるため、いくつかのポジティブなステップが政府から採られているが、もっと振興プログラムが必要である。また政府はこの部門に対して停電させないことを確実にするべきである。そうすれば、バングラデシュには安い労働市場があるため、もっと多くの海外投資を呼び込むことができるであろう」と語っている。

### 3. オランダ、農業と皮革加工部門などへ投資意欲

2/23、産業大臣アミール・ホセイン・オムーは、ダッカにある商業省の事務所でオランダ大使ジャーベン・デ・ジョングと意見交換をした後、「オランダはバングラデシュが食品安全を強化しているので、農業と革製品加工部門に投資することを切望している。またわが国のエコ・フレンドリー帆船解体業と革産業の開発のために、オランダはその部門に協力するであろう」と発言した。会議ではバングラデシュの産業政策、BSTIの近代化、2国間の貿易代表団の交換、製革所と船舶解体所の近代化そして国内のRMG部門の開発についても話し合った。産業大臣は会議のとき、「オランダは大切な開発パートナーであり、欧州諸国の中で始めてバングラデシュの独立を認知した国である」と付け加えた。

### 4. インド繊維業界、バングラデシュ市場に再注目

インドの繊維業界が、歴史的に密接な関係にあるバングラデシュに再注目している。背景には、同国での中国企業の攻勢を抑える狙いがあるようだ。シッダハース・フェブ・テキストのニハル・ジャイン氏は、インド南部ゴア州で開催された見本市「インターナショナル・エスニック・ウィーク(IEW)・ゴア 2014」に参加し、「インドと家族のような関係にあるバングラデシュで、中国が攻勢を強めてきた」との危機感を表明。FMテキスタイルのサンジャイ・ムラルカ氏も、「バングラデシュでは2年ほど前から、中国の勢力が拡大している。主要な取引相手国の一つであるバングラデシュ市場にあらためて注目することは、インドの繊維産業にとって大きな意味がある」と指摘している。同見本市にはバングラデシュから130人が参加した。同国のバイヤーからも、地理的な近さを上げ、インドとの取引の活発化を望む声も出たという。IEWは、西部グジャラート州スーラトの繊維産業振興を目的に設立された団体「スーラト・ドリーム」が主催。2日間で国内から約1,000人、海外から同400人の招待客が参加した。

### 5. わが国のRMG産業、最新設備の導入開始

わが国の230万ドルに相当するアパレル(RMG)産業は、グローバル市場での競争力を強化するため、生産コスト引き

下げに効果大きい、近代機械や道具の設置を開始した。衣料メーカーの経営者たちは、「最新の衣料機械の多くがドイツで開発され、それを使えば品質の向上が確保され、無駄を省くことができ、生産コストを最小限にすることができる」と信じ、その導入に踏み切った。サバル、アシュリアそしてカジプールなどの多くの工場に訪問してみると、そこで近代機械が使われている現状をみる事ができる。衣料メーカー産業界では、多くの経営者が2代目となっており、彼らは現在ある機械を取り除き、最新で高価な機械を備え付けている。彼らは、「このような機械を使えば、比較的少ない労働者でもとても早く生産できる。時間も労働賃金もかなり節約できる」と語っている。

数ヶ月前悲惨な火災事故に直面したスタンダード・グルールの代表取締役も、「このようなタイプの新しい機械を設置することは、バイヤーからの要求を満足させることでもある」と語っている。またカジプールでリードしているほかの衣料工場である MC ファッションの業務部長(生産)サムスール・アミンは、「バイヤーの要望で 30%の機械を交換し、労働者を大幅に減少させた」と語った。ブラザー、ペガサスそしてハシマのような多くの有名な衣料器械の代理店であるフェアローン・グループのマネージャー(販売とマーケティング)ジョシン・ウッドイン・カンは、「最新型の機器の販売は、ここ 2~3 年の内に著しく上昇した。2012 年までは 79 のクライアントであったが、現在はその数も 150 までに上っている。そのうちの 40 以上のクライアントは、近いうちに機械の大幅な刷新をすると我々は期待している」と語った。

## 6. RMG メーカー、米・アパレル・エキスポからのスポット・オーダーに注目

バングラデシュの既製服(RMG)メーカーは、ネバダ州にあるアメリカのリゾートシティ・ラスベガスで行われた 3 日間にわたるアパレル・エキスポに参加し、北アメリカ市場からさらに多くの受注を得ようと彼らの最新の製品を陳列した。イベントマネージャーであるマジック・インターナショナルとして知られるメンズ・アパレル・ギルド・イン・カリフォルニアは、3 日間にわたるエキスポを企画し、開催された。ファッション展示会はアパレルから衣料アクセサリ及び靴部門まで 1100 以上のメーカーを集め、様々な製品が陳列された。バングラデシュからの参加者の主な目的は、米国のバイヤーからスポット・オーダーを得ることである。マヤ・ファッション・エンタープライズ・リミテッド(MFEL)会長 Md.モンズール・ハサンは、「バングラデシュの最新の流行を、バイヤーたちに紹介するだけでなく、もっと大きな市場を掴むために参加した」と語った。また別の参加者ファニー・セーターリミテッドの代表取締役ガジ・モハマッド・モンズールは、「将来性のあるバイヤーからの注文を受けることが、このフェアの主な期待だ」と語った。今まで、世界的な財政不況と世界市場での綿価格の高騰のため、バングラデシュはスポット・オーダーを得ることはできなかった。しかし、モンズールはこのショーへのバングラデシュ参加者の期待は、今回とても高いと語った。マジックは 2 月と 8 月に毎年、国際貿易見本市をラスベガスで開催している。

## 7. 衣料工場、安全性確保への努力

2/23、「法律を守っていないため、衣料工場のほとんどに構造欠陥がある」と、小売業者グローバル同盟は語った。26 の北アメリカ衣料小売業者のプラットフォームであるバングラデシュ労働者安全協定の代表取締役メス・バラビンは、「衣料工場の約 74%が、“バングラデシュ国家建物規定”の施行の前に建設されている。ほとんどの工場が、設計図を作成しておらず、土壌調査報告、電気の配線図も持っていない。そこで我々は工場検査で危機に直面している」と語った。協定の安全検査部長ブラド・ローエンは、「バングラデシュは RMG 輸出の莫大な可能性があるが、このチャンスを掴むために変身しなければならない。建物と火災安全について、労働者とオーナー両方に適切な教育が必要である」と強調した。ELEVATE のシニア・パートナーでありエキスポ開催委員会の会長であるイアン・スパウディングは、「多くの工場オーナーは知識が欠けているため保証書のない安全機器を購入している。建物安全を確実にするために、保証書付きの機器を購入するように」と、衣料工場オーナーたちに求めた。また彼は国際小売業者にも、バングラデシュの縫製工場がそれぞれこれらの準備ができるように適切な基金を立ち上げるように呼びかけた。インダストリアル・グローバル・ユニオン・バングラデシュ局のラメシュは、国際小売業者がバングラデシュの工場から注文を取り消したことも批判した。「検査の後、もし技術専門家が建物に差し迫った危険があるといえ、この工場は必ず閉鎖されることになっているが、法的契約期間の間はバイヤーたちが労働者の賃金を払う責任を持たなくてはならない」と語った。

建物などの改造中は、工場から続行中の注文を取り消すことはしないと国際小売業者は約束したが、共有ビル内などにある工場から注文を取り消している小売業者も、実際に存在している。BGMEA は協定と同盟に底辺の労働者を援助するために、衣料労働被害者基金を設立することも求めた。BGMEA は既に最低限度の費用で、労働者たちにサービスできるよう病院を建設する動きを取っている。

バングラデシュは現在中国に続き第 2 位の衣料輸出国である。BGMEA によると国内には 4,000 あまりの操業中の縫製工場があり、360 万人に近い人々が直接雇用されており、80%は女性である。輸出推進局によると 2012-13 年度の衣料輸出は合計 270 億ドルに及ぶわが国海外販売のうち 80%の 215 億ドルを占めている。

## 8. 米大使、不良 RMG 工場オーナーに、工場閉鎖を要求

2/20、バングラデシュの米国大使ダン・モゼナは、既製服(RMG)メーカーに、「国際安全基準や労働者の権利を満たすつもりがないのならば、工場を閉鎖し、ビジネスから撤回するように」と要求した。また米国大使はバングラデシュ衣料メーカー及び輸出業者協会(BGMEA)も訪問し、「全ての衣料縫製工場がバングラデシュのアパレル生産と輸出のために、世界のモデルになれるよう変身することを、工場オーナーたちが自覚し確実に実行するように」と、呼びかけた。そして米国大使は、「衣料工場の中には、彼ら個人の工場を大変身させるように全力を尽くしたオーナーたちもいる。しかし変身を見守ることは、結果としてタズリーンやラナプラザの大惨事以上のものになることがわかっている。工場オーナーの中には自分の利益だけを追い求めることに、焦点を当てている者もいる。そしてこのようなオーナーたちは将来この部門が崩壊することがあれば単に自分の利益だけを取り、他に移るであろう。規則と手順を実行することがなければ、リフォームは実際には効果を表わさないであろう。そしてバングラデシュは国民の巨大RMG部門を国際レベルへと持ち上げていくことはできないであろう」と話した。

モゼナ氏はGSPを復活させるために、200人の新しい検査官の採用、公的にアクセスできるデータベース、労働法の実施、EPZを保護するためのバングラデシュ労働法の拡大も含めて、多くの課題がまだ残されていることを繰り返した。それでもILO地方ディレクターのスリニバス・レディーは、「職場条件を改善したり、労働者の権利を強化したりして著しい改善がなされ、その結果バングラデシュの労働法改正につながり、2013年にはRMG部門で労働組合員の登録が著しく上昇した」と語った。

## 9. 300億ドル衣料輸出に向けて、技術のアップグレードが必要

バングラデシュは労働者の生産力を向上させ、技術をアップグレードしなくては衣料輸出を2015年までに300億ドルそして2021年までに500億ドルに上昇させることはできないであろう。政策ダイアログセンターのデバプリヤ・バットチャルヤは、「衣料部門は変身中である。その再構成はとても重要なものになるであろう」と語った。彼の提案は国際連合産業開発機構のディレクター、ルドビコ・アロコルタや、イギリスのワーウィック大学経済学教授クリスファー・M ウドルフに支持された。「バングラデシュはこれから10年の間に、テキスタイル部門だけでなくほかの可能性のある部門で技術のアップグレードに集中するべきである」とアロコルタは語った。輸出推進局によると会計年度2012-13年には衣料輸出はわが国の全体の海外販売総額270億ドルのうち80%に当たる215億ドルを占めた。

商業大臣トファイル・アハメドは、「2015年までに300億ドルそして2021年までに500億ドルを目標にするのなら、変身の一部として、バングラデシュは高級品の生産に向かう必要がある。しかし安い衣料は最近の経済崩壊の中、安定的な輸出を保ってきており、低価格製品も重要性である」と強調した。バットチャルヤは「高級品と低価格製品どちらを選ぶかは政策を決定する鍵になるであろう。不景気の間、高級品に見られるような需要の低下は、低価格の製品の需要には見られないことは事実である。しかし、開発国で経済が持ち直している中、高級品の需要は再び増えるであろう。その上、低価格品の競争は激しくなり、このカテゴリーはバングラデシュだけのものではなくなるであろう。ミャンマーなどのような新しい国が全力を尽くしてやってきているし、アフリカの国々も安い労働賃金という状況で登場してきている。したがって、コスト低減のため、ガスと電気の供給を増加させる必要があり、これに加え、道路を改善し、交通渋滞を解決させなくてはならない」と話している。

## 10. バングラデシュディーゼルプラント、ビジネス拡大へ意欲

軍隊により運営されているバングラデシュディーゼルプラント(BDP)が、そのビジネスを拡大するために彼らの製品の展示会を開催した。バングラデシュ軍隊のクォーター・マスター・ジェネラル及びディーゼルプラント会長のアンワール・ホセイン大佐は、ダッカのホテルで開催中の展示会を訪れた。BDPはバングラデシュ鉄鋼工学コーポレーション(BSEC)の連合組織として1972年に操業を始めた。しかし連続する損失のため工場は2004年に閉鎖された。そして2007年その操業がバングラデシュ軍隊に引き渡された。BDPは現在軍隊の管理の下で利益を上げている。スピーチのなか、アンワール・ホセイン大佐はBDPの開発のため絶え間ない援助を続けたBWDB・BPDBバングラデシュ農業開発コーポレーション、米研究所、ダッカ・ノース・シティー・コーポレーション、バングラデシュ鉄道、BGBそしてバングラデシュ海軍に、感謝した。このプラントではディーゼルエンジン、ジュート・ミルや飼料ミルのスペアの製造、発電機、潜水艦そして遠心ポンプのソーラーパネルやアクセサリーのサプライ、プリペイド・デジタル電気メーターの設置、囲い、冷凍保存庫、ポンプハウスの建設、パワープラントやガス田のためにアースフィリング・土地開発などを行っている。

以上